

# 広島別院だより

Vol.6  
夏号

真宗大谷派（東本願寺）  
広島別院教化委員会発行

## 広島別院が完成しました

御本尊還座式（げんざしき）を執行し



広島別院明信院の還座式が六月二十五日に行われました。

二月の建築完了後、仏具の製作を経て、一昨年の十二月から比治山町法正寺に安置されていた御本尊がお還りになりました。還座式当日は関係者・門徒ら八十名が待ち受けるなか、法正寺からの列が入堂。御本尊をはじめ、親鸞聖人・蓮如上人などの御影（肖像）が奉懸されました。

関係者への感謝状授与と仏具寄付者・特別懇志寄付者の採納式が行われました。

式中、木曾修広島別院輪番は「親鸞

聖人の御遠忌という縁を頂いて広島別院が完成しました。ここは宗祖の教えをたずね、求めていく道場です。人々が歩き、往来できる道がここに



木曾修輪番

勤行後の式典では建設



広島鸞声会による法要加勢

あります。道は私の向かう方向や生きる手がかりを教えてください。道を生み出し、確かめていく場所であるこの道場が御本尊を中心とした私たちの生活をたずねていく聞法（もんぽう）の場となるよう、活動してまいります。」と抱負を述べ、さらに「宗祖の教えを広めるとともに非核非戦を発信する拠点として別院を発展させていくために、皆様と共に尽力していきたいと思えます。」と、関係者に対しよりいっそうの協力を求めました。



勤行中の散華



法正寺を出発



参道列



建設関係者への感謝状授与

（海谷英爾設計士）



仏具指定寄付者採納式

（安芸北組専光寺門徒大膳昭二氏）



御本尊を箱から慎重に取り出し安置

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌記念講演会

開催報告

六月十四日、国際会議場フェニックスホールにおいて宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌記念講演会が開催されました。

講演会は三部構成で、第一部の「伝統声明の紹介」では真宗大谷派に七百年以上伝わる「坂東曲」（ばんどうぶし）が披露されました。

本願寺派のご門徒が圧倒的に多い広島の中で、三十名以上の僧侶が上体を前後左右に激しく揺さぶりながら勤める坂東曲の迫力に約千三百名（一般招待者約六百名）の来場者の多くから感動の声寄せられました。



続いて第二部では政治学者の姜尚中氏（カン・サンジュン）による基調講演がありました。（基調講演要旨参照）

そして第三部は姜尚中氏と木越康大谷大学教授が「共苦」と「共生」というテーマを中心に対談をしました。親鸞聖人の教えを軸とした木越氏とキリスト教の視点から見た姜氏による宗教を超えた対話に来場者は真剣に聞き入っていました。（コーディネーターは寺川大雅芸備組西願寺住職）



対談風景



寺川大雅氏



木越康氏



姜尚中氏



【基調講演要旨】

《共苦》から《共生》の未来へ

—広島・水俣・福島が問いかけるもの—

政治学者 姜 尚中

～ヒロシマからフクシマ～

来年、広島は被爆から七十年の節目の年を迎える。広島で起きた現実が七十年も経つと忘れられていくが、被爆者には忘れることができない。眠ることなく目覚めて被爆の実相を伝え続けている被爆者は今の福島に大変心を痛めている。

唯一の被爆国が原子力の平和利用を推進した。五十基の原発がなぜ作られたのか？それは、原発への賛成・反対という問題を越えた人類史的な問いかけである。

東京の明るさこそ人間が求めてやまない「楽」の象徴である。私たちは「楽」を求めて努力する。その象徴が明るさである。実はその明るさは福島の原発によってまかなわれている。

光があるところに影がある。影が深いほど光は明るい。



～フクシマからミナマタ～

福島の汚染水の海への流出は水俣の不知火の海を連想させる。その地方の奇病、風土病と捉えられていた水俣病は有機水銀が原因と究明された。有明海沿岸一帯には今も苦しみを訴える人々が何万人もいる。水俣病による差別を深く、深く隠しておびえて暮らす人々が大勢いる。

福島出身であることを今から口に出せないという声が多く聞かれる。公式には十万人、非公公式には十五万人が県外に出たといわれる。水俣をみれば、福島も同じ道をたどるのかと思わざるをえない。

～苦を特定の人々に押し付けている現代～

水俣、福島、そして広島。五濁悪世の現代社会。苦を特定の人々に押し付け、自分は光の中でたつぷりと恩恵にあずかっている。

苦を共に分かち合う。生きている人々が苦を共に分かち合うことが本来の人の姿だと思うが、苦に喘ぐ人々と共に生きるように国が先導的な役割を果たしているとはいえない。むしろ、その反対に苦しみの世襲化が社会の趨勢となっている。これこそが今の時代に起きている不条理である。考えてみれば、苦からの救いを問い続けたのが親鸞聖人である。苦からどう救われるかをたずね続けたのが親鸞聖人である。

【対談要旨】

～大の虫を生かすために小の虫を殺してきた～  
なぜ沖縄に日本の七十%以上の基地があるのか？なぜ沖縄だけが苦をなめなければならぬのか？核の傘と広島とは本来両立しないが、大の虫の核の傘のために小の虫の広島は我慢するしかない。

～現場で生まれる縁を手がかりに～

共生のためにはまず、苦を分かち合うことだ。苦を共にするには、まず自分の目の前にある現場で出来る有縁を大切にしていこう。楽や富や喜びを共にするより苦を共にする「共苦」が「共生」につながる。生きている現場で苦を分かち合うことで、支え支えあうという本来の関係が生まれるのではないだろうか。

お寺の活動いろいろ

～仏教基礎講座が開講～

七月十二日、別院で仏教基礎講座（安芸南組主催）が開講しました。講座は全八回。講師は古田和弘大谷大学名誉教授。講座テーマは「釈尊から親鸞聖人へ」。

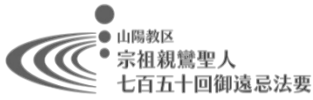
当日はチラシや新聞などで応募した七十人以上が受講し、会場は満堂の熱気に包まれました。釈尊の仏教が海を渡り、親鸞聖人の念仏に至るまでの過程を時折ユーモアを交えながら語る古田先生のお話に和やかな雰囲気の中、第一回を終了しました。

次回は八月二十三日。定員まで若干の余裕があります。お問い合わせはなだおまで。090-1183-1378



古田和弘師





広島別院・山陽教区同朋会館広島

業務開始

広島別院・山陽教区同朋会館広島は皆様のおかげにより無事に再建されました。

六月二十五日より別院・教区同朋会館としての業務を開始しております。

何かと不手際なことがあるかと存じます  
が、よろしくご指導のほど、お願い申し上げます。

みなさまのご来院をお待ちしております。

## 《参拝時間》

九時〜十七時

■ご参拝の際は前もってお電話ください。

《休院日》

土・日曜日、祝日、お盆、年末年始

■法事・葬儀は休院日でも承ります。  
今後ともよろしくお願いいたします。

※お寺のはてなワードはお休みです。

・『山陽教区同朋会館・広島別院落慶法要』

二〇一四年十月二日（木）午後一時

・「山陽教区」・広島別院

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要』

二〇一四年十月三日（金）午前九時半

**おしらせ**  
**(1)**

～仙教公開セシニ開催～

来る九月、広島別院で左記の通り仏教公開セミナーが開催されます。

聴講希望の方は広島別院までお電話にてお申し込みください。整理券を送付します。

尚、定員になり次第、締め切りとなりますので、あらかじめご了承ください。

【期 日】九月六日（土）

午後三時三〇分～五時

【講師】一樂真師

【講題】「今、幸せについて考える」

【聴講料】一〇〇〇円

【定員】八十名

【主催】大谷大学同窓会広島支部



～講師プロフィール～

一楽真 (いちらく・まこと)

1957 年石川県生まれ。

大谷大学教授（真宗学）

主な著書に『親鸞聖人に学ぶ  
- 真宗入門 -』（東本願寺）、  
『親鸞の教化 - 和語聖教の世界 -』（筑摩書房）など。

**おしらせ (2)**


テレビ局がやってきました

テレビ新広島「ソーだったのカンパニー」のロケが広島別院で行われました。広島別院の仏具を製作した(株)三村松の企業取材のようです。当教区からは泉原教区会副議長がインタビューを受けました。放送日は左記の通りです。

ぜひご覧ください。

■広島県・岡山県  
・九月十四日(日)  
午前九時三〇分

■山口県  
・九月二十日(土)  
午後五時



山口県


・九月二十日（土）

午後五時



## 編集後記

記念講演会でのこと。フェニックスホールで当日券の受付をしていると、二組の外国人に「何をやっているの？映画？と聞かれ、咄嗟に「ブッディストショウ（坂東曲のつもり）、アンド・スピーチ（講演のつもり）」と答えました。すると、一組目の母親からは「ブック（本）？」と聞き返されましたが、小学生ぐらいの男の子が母親に「ノー！ブッディスト！」とフォローしてくれました。平和公園の中にあるホールなので、原爆関係の映画か何かと思うたのでしょうか。受付をしていると思うぬ事があるものです。



真宗大谷派(東本願寺)広島別院明信院

〒730-0044 広島市中区宝町 4-16

Tel 082-241-5342

【HP アドレス】

<http://www.ac.auone-net.jp/~hirobetu/>